

# 資 料 2

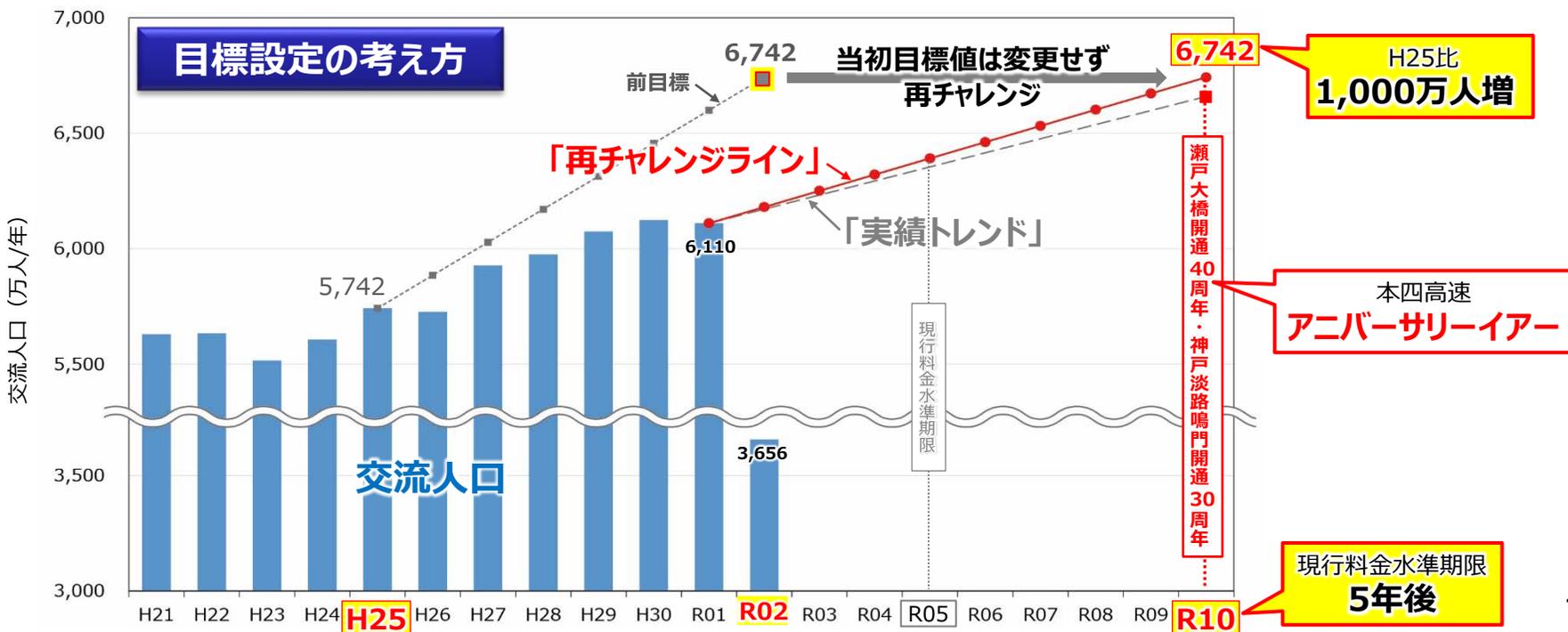
～令和3年度 協議会のふり返し～

## 目標設定に向けた方向性

- ◆ 目標の到達点は、下方修正しない。
- ◆ 現実的な目標としPDCAが機能する目標値とすることが重要。
- ◆ 前回協議会での議論を踏まえ「道路に軸足を置く」。

## 基本方針

- ◆ 当初目標値は変更せず、H25比 1,000万人増に再チャレンジ。
- ◆ PDCAを機能させるため、実績トレンドと大きく乖離しない目標値を設定
- ◆ 現行料金水準期限5年後で、かつ瀬戸大橋開通40周年、神戸淡路鳴門開通30周年と重なる令和10年度を目標年次とする。
- ◆ 「道路に軸足を置く」視点から、目標とする交流人口に併せて交通量も設定



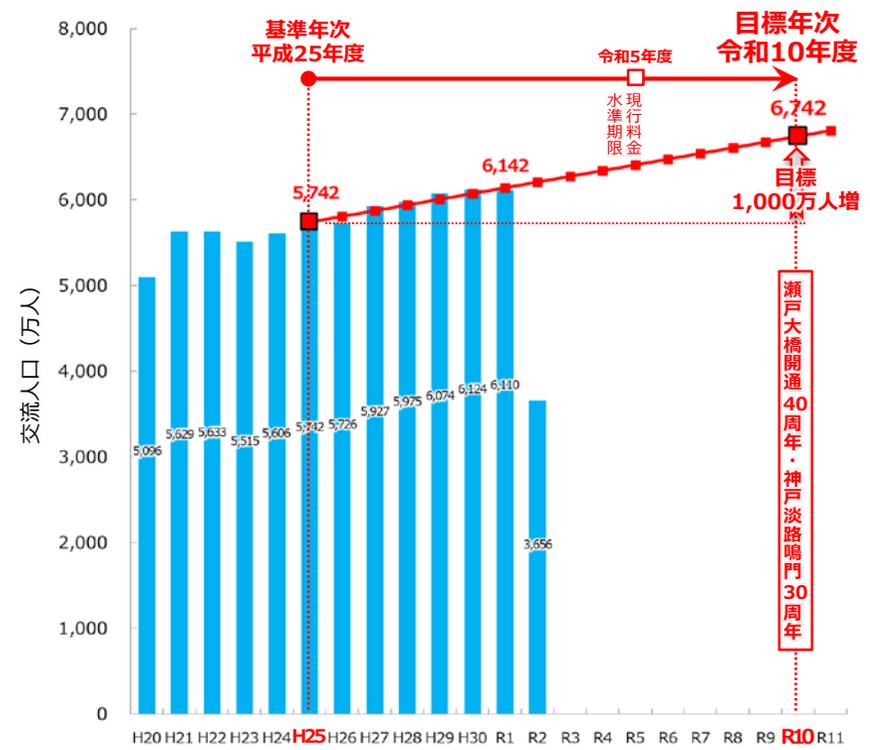
## 「環瀬戸内海地域交流促進協議会」次期目標

### 【短期目標】

コロナからの「観光需要の復興」を目指し、  
令和4年度までに令和元年度の交流状況（R1:6,110万人）  
以上に復興させる。

### 【中期目標】

現行料金水準期限の5年後で、  
かつ瀬戸大橋開通40周年、神戸  
淡路鳴門開通30周年が重なる  
令和10年度を目標年次とし、  
交流人口 H25比 1,000万人増を  
目指し『再チャレンジ』



また、上記目標に相当する、本四高速の日平均交通量<sup>※</sup> **61,000台/日**を併せ  
目標とする。

※ 前目標の基準年（H25）から令和元年までの交流人口・本四高速交通量比0.331から換算



## 情報発信

- 観光地名称を表示した標識  
⇒直轄国道以外に拡大
- 案内の多言語化  
⇒英語表記の適正化
- 高速道路ナンバリング等  
⇒印刷物への記載促進
- 自治体広報誌で四国・中国地域の相互広報
- 情報コンテンツの充実・オフィシャルロゴ
- 四国八十八景のプロモーション
- 本四高速の新たな料金の広報
- SNSやHPを活用したインパクトのある情報、目に留まりやすい情報発信



## 観光連携

- 環瀬戸内海地域のスポーツ観光の振興  
⇒サイクリングでつなぐ環瀬戸内海の輪  
(四国一周ルートと地域ルートを組み合わせ、一体的にPR)  
⇒サッカー公式試合での交流促進
- 瀬戸内海の「海」の魅力の発信  
⇒本四架橋を中心としたインフラツーリズム  
(民間が主体となったインフラツーリズムの取り組みを構築)  
⇒瀬戸内海国立公園ウオーク
- 観光地における渋滞緩和  
⇒観光地における渋滞対策の検討・対策実施
- 利用者目線に沿ったモデル、周遊ルートの設定  
⇒観光地までのルート、所要時間を案内
- 2次交通の改善、M a a S
- 周遊を支援する事業の実施  
⇒県独自の取組み



## 産業連携

- 物流機能の強化  
⇒高規格ネットワークの拡充  
⇒SA・PAの大型駐車マスの拡充
- 産業基盤の整備  
⇒工業団地等の整備  
⇒地域活性化IC、スマートICの整備  
⇒県による誘致補助制度の創設等
- ワークーション、サテライトオフィス等の取組



## 生活、文化等

- 環瀬戸内海地域の歴史や文化のネットワーク化  
⇒歴史的遺産のネットワーク構築とPR  
⇒文化芸術ネットワークの推進
- 環瀬戸内海地域における食文化の発信・伝承  
⇒食文化のPR  
(環瀬戸内海地域の体験型食イベントPR) を追加



## その他

- 「道の駅」におけるインバウンド対応・交流促進の取組  
⇒観光客の実態調査  
⇒トイレの洋式化、フリーWi-Fi設置、体験型アトラクション等の充実、クレジットカード対応・免税対応、多言語化  
⇒道の駅での相互連携
- 「道の駅」施設管理における見える化  
⇒情報提供施設・トイレ等を評価し、各道の駅で快適性向上の取組
- 道路ネットワーク整備